

# 平成10・11年度 教育システム研究開発センター活動計画

山沢 清人・橋浦 史一・杉野健太郎

## 《遠隔システム研究開発分野》

本研究開発分野では次の2つの研究プロジェクトを推進すると共に、1つの懇談会を開催する。

### 1. 研究プロジェクト

#### (1) 高等教育におけるマルチメディア遠隔講義に関する研究開発

- ・目的：大学におけるマルチメディア利用の遠隔講義の可能性について総合的な検討を行う。
- ・組織：座長；山沢清人教授（教育システム研究開発センター）  
委員；中野和朗教授（人文学部），巽 勇吉教授（教育学部），干川圭吾教授（教育学部），六浦光一教授（経済学部），浅田 明教授（理学部），村瀬澄夫教授（医学部附属病院），大下眞二郎教授（工学部），野村彰夫教授（工学部），北澤秋司教授（農学部），眞野倅一教授（繊維学部），山本 巖教授（繊維学部），  
学外委員（講演会講師として）；清水康敬教授（東京工業大学）  
対馬勝英教授（大阪電通大学）  
岡本敏彦教授（電気通信大学）  
斎藤信男教授（慶応大学）  
Utsumi Takeshi 教授（Global University）

活動：学外委員を講師とする研究会を開催し、その講演内容を基調として信州大学におけるマルチメディア利用の遠隔講義について検討を行う。

#### (2) SUNS によるマルチスクリーン映像とコンピュータネットワークの併用による遠隔講義システムに関する研究

- 目的：① SUNS 遠隔講義に ATMLAN 利用の CAE を導入した授業の実践とその評価および問題点の検討
- ② マルチメディア遠隔講義用教材の開発方法に関する研究
- ・組織：座長；山沢清人教授（教育システム研究開発センター）  
委員；杉野健太郎助教授（教育システム研究開発センター），守 一雄教授（教育学部）東原義訓助教授（教育学部），山上浩志助手（医学部附属病院），大下眞二郎教授（工学部），海尻賢二教授（工学部），佐藤

敏郎助教授（工学部）、田中 清助教授（工学部）、寺澤才紀助教授（工学部）、橋本佳男助教授（工学部）、半田志郎助教授（工学部）、不破泰助教授（工学部）、水野りか助教授（工学部）

活動：① 講義テキスト、演習問題などのCAIの格納、メールスプールなどのため  
の研究用サーバーを設置し、旭一若里間の伝送容量負担を減じかつ学生とのやりとりを迅速とする。

- ② 信州大学内外の研究者を交えた研究会の開催
- ③ 講義アンケート、講義風景のビデオ撮影による評価
- ④ 電気電子工学分野におけるマルチメディア遠隔講義用教材の試作
- ⑤ 研究成果のまとめと学会での公表

## 2. 懇 談 会

(1) SCS と SUNS の連携による遠隔講義システムの積極的利用に関する懇談会

- ・目的：SCS の積極的利用を学内で推進する。
- ・組織：SUNS 運営委員会の委員を中心に10名程度

### 《カリキュラム応用設計研究開発分野》

(1) ボランティアに関する研究開発

昨年度に継続してボランティアに関する授業を平成11年度に開講することを目指す。  
プロジェクトメンバー。座長：田巻義孝教授（教育学部）、小泉典章助手（医学部附属病院）、  
中野和朗教授（人文学部）、橋浦史一教授（教育システム研究開発センター）、平野吉直助教授（教育学部）、松下俱子（国立信州高遠少年自然の家）、宮崎敏孝助教授（農学部）。

(2) 授業評価の実施

昨年度に継続して、共通教育にかかわる学生による授業評価の実施を目指す。教官が学生と共に授業をより良く改善することを目的として実施されるもので、教官・学生双方のプライバシーを極力守る形で実施することで、より良い結果を期待したい。アンケートの実施予定日は、平成11年1月6日（水）から12日（火）までの一週間。開設授業科目・題目表の各グループ内で一教官一授業を対象とする。

プロジェクトメンバー。座長：橋浦史一教授（教育システム研究開発センター）、平木幸二郎教授（人文学部）、東原義訓助教授（教育学部）、青木達彦教授（経済学部）、二宮晏教授（理学部）、福嶋義光教授（医学部）、藤井恒男教授（工学部）、徳本守彦教授（農学部）、坂本博教授（繊維学部）。

(3) 平成10年度発足の新カリキュラムの評価方法の考案と評価の実施

来年度以降、新カリキュラムの評価・改善についての意見等を聞き、まとめていきたい。

## 《語学カリキュラム研究開発分野》

本分野では、以下の三プロジェクトを行う。また、関連する講演会を毎年二回ずつ行う。

- プロジェクト1 信州大学における英語教育の現状と課題
- プロジェクト2 マルチメディアを利用した外国語教育の現状と活用法
- プロジェクト3 テキスト作成

以下、この三プロジェクトについて簡潔に説明する。

### ◇プロジェクト1 信州大学における英語教育の現状と課題（平成10・11年度）

プロジェクトメンバー：杉野健太郎助教授（教育システム研究開発センター）、加藤敏三助教授（人文学部）、寺澤才紀助教授（工学部）、金森千恵助手（人文学部）、ロバート・マーク外国人教師（人文学部）

信州大学では、平成10（1998）年4月より共通教育（教養教育）の新カリキュラムが実施されている。これにともない、英語教育も大きく変わった。このプロジェクトは、信州大学の共通教育における英語教育の現状を分析し、その展望を示すことを目的とする。

現状分析は、以下の角度から行う。

#### ▽信州大学の英語教育制度

単位数、一クラスの学生数、非常勤依存率、LL教室の数、などを他大学との比較を基に検討する。

#### ▽学生による信大英語教育の評価

アンケートによる

#### ▽学生の英語力評価

テストによる

#### ▽共通教育英語教育担当教官による評価

アンケートによる

#### ▽信大教官の求める英語教育の検討

アンケートによる

以上のデータをもとに現状を分析するとともに課題を浮かび上がらせ、信大英語教育の向かうべき道を探る。平成12（2000）年3月に研究報告書『信州大学における英語教育の現状と展望』を刊行する予定である。

◇プロジェクト2 マルチメディアを利用した外国語教育の現状と活用法（平成10・11年度）

プロジェクトメンバー：杉野健太郎助教授（教育システム研究開発センター）、飯田実教授（人文学部）、伊藤加奈子講師（人文学部）、加藤鉦三助教授（人文学部）、近藤富英助教授（人文学部）、清水明教授（人文学部）、吉田正明助教授（人文学部）

マルチメディアを利用した外国語（英語・フランス語・中国語）教育の可能性について考察する。主に共通教育的教育を中心とするが専門教育も射程に入れる。様々なソフト（CALLソフトばかりでなく一般的なソフトも用いる）の試用・応用実験を通してマルチメディア機材を用いた外国語教育の現状と可能性を主に検討すると共に、その実践ならびに普及法も検討する。教育実践に関しては、授業への応用ばかりでなく、自主学習ならびに生涯学習への活用も考察したい。また、外国語とともに社会が学生に求める二条件のもう一方である情報教育とのリンクについても考察する。平成12（2000）年3月に研究報告書『マルチメディアを利用した外国語教育の現状と活用法』を発行する予定である。

◇プロジェクト3 テキスト作成（平成11年度）

プロジェクト1と2の成果に基づいて、信大の外国語教育（特に共通教育）で標準となるべきテキストを作成する。したがって、上記プロジェクト1と2の輪郭が見えてきた平成11年度より始める。中心となるのはプロジェクト1と2に参加した教員であり、その中から希望者を募る。平成12（2000）年3月に試作教科書を発行する予定である。